

▼家庭での備え

・家の耐震補強・家具の固定
 ・設置・家庭での非常持ち出し
 ・や備蓄品の準備・避難所とそ
 こまでの経路の確認・自主防
 災組織の強化等

☎ 総合防災課

(25)8133

高島市と地震
 地震については、琵琶湖西岸断層帯の北部と南部で同時に発生した場合、マグニチュード7.8程度の規模となり、北部での発生確率は今後30年以内に1%から3%、50年以内が2%から5%と予想されています。今回の大地震が、日本列島の断層にどのような影響を与えたのかは分かりませんが、琵琶湖西岸断層帯がいつ活動してもおかしくないことは間違いありません。引き続き不測の事態に備えてください。

高島市と津波

津波については、琵琶湖でも地震により湖底が上下にずれた場合に発生する可能性はありますが、被害を与えるようなものではないといわれています。高島市に隣接する福井県の日本海沖には、海溝型のプレート境界はないため、今回のようなプレート型地震による巨大な津波の発生は考えにくいのですが、万一に備えて、原子力発電所は津波対策の強化についての対策を始めています。

東日本で巨大地震発生!!

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、世界最大級のマグニチュード9.0を記録し、死者行方不明者を合わせ2万7千人以上(4月15日現在)というすさまじい被害をもたらしました。大津波、福島第1原子力発電所の放射線漏れも加わり東日本は大混乱を極めていきます。

高島市と原発

義援金や救援物資提供にご協力いただき、ありがとうございます。

高島市は、最も近い原子力発電所である美浜発電所から20km離れており、今回、福島第1原子力発電所の事故に対して国が指示した避難地域に該当する距離には入りません。しかし、20kmから30kmの地域が屋内避難を指示され、さらに事故処理に長時間が必要なことから、避難地域より遠いところでも計画的避難区域が設定されました。このことから、高島市でも状況によっては、屋内退避や避難の対象となる可能性があります。原子力防災については、今後、国や県と一緒に見直しをすることをしていますが、万一、原子力事故が発生した場合は、市から防災無線等により情報を提供します。風評に惑わされることなく、指示に従い冷静な行動をお願いします。

高島市内の交通事故発生状況 (平成23年3月末現在)

●発生状況 (累計)

	今年	昨年	増減
人身事故発生件数	48件	52件	▲4件
死者数	3人	0人	3人
傷者数	65人	65人	0人

●交通事故の特徴

事故の形態	件数	割合
追突	16件	(33.3%)
出合頭	9件	(18.8%)

高齢者(65歳以上)の事故
 18件 (37.5%)



3月の火災・救急・救助 件数

() 内は年累計

▼火災

建物火災/1(3)	車両火災/0(1)
林野火災/0(0)	その他火災/0(0)

▼救急

交通事故/16(46)	一般負傷/26(117)
急病/129(379)	その他/16(78)

▼救助

火災/0(2)	交通事故/4(7)
水難事故/0(1)	その他/0(1)

(注)【救急】 その他=火災+労働災害+運動競技+加害+自損行為+転院搬送等
 【救助】 その他=自然災害+機械事故+建物事故+ガス事故+爆発等

☎ 消防総務課 (22)1234

「ふるさと絵屏風」完成

南船木区自治会

平成22年度自治会ステップアップ事業として取り組まれてきた南船木区自治会の「ふるさと絵屏風」が完成しました。「今の青井さんの家の所に、汽船の待合所があったな。沖の方へ80m

▼絵…河本万里子さん (北船木出身(京都市在住)の画家)



もの長い棧橋があったんやで・・・」

「足踏みの水車で、夕方1時間くらい田へ水を入れるんや。ジャブジャブという水の音や、西の山に夕日が沈む美しい風景がなつかしいなあ。」



語る人、聞く人の目が輝きます。

区民が生きてきた南船木の思い出を、「五感体験アンケート」や「聞き取り会」を通して集約し、生活物語としての絵屏風として具現・制作されました。

今後、この絵屏風をもとに老若世代間の交流の輪を深め、先人たちが築きあげてきた郷土の文化や暮らしの知恵・ふるさとへの思いをいつまでも語り継いでいきたいと、区民の方は言うておられます。

(市民活動支援課)

八田さん 介護百人一首に2年連続選定

「介護する、介護される中で感じた素直な思い」を短歌で読むNHK介護百人一首2011に、新旭町在住の八田吉江さんの作品が約8千首の中から選ばれ、2年連続選定の快挙となりました。八田さんは、介護をする中でふとした時に感じる幸せのひとときを短歌で表現されました。

(企画広報課)

お互いの二の腕しっかと掴まえて
 小春の縁側対面歩行

市長の手帳

大切なのは、地域の絆



少子高齢化と核家族化がますます進むなかで、老老介護や自宅での緊急事態、不幸にして亡くなられても周りが気付かないことなど、無縁社会化が広まってきているように思います。

私たちは、決して一人では生きていけません。ご近所など周りの人たちとの関わり、つながりのなかで、お互いに支え、支えられながら生きることの喜びを感じるのではないのでしょうか。

市内にお住まいの男性から、お手紙をいただきました。

80歳を超えるご夫婦で、介護認定を受けられた奥さんをご自宅で介護されています。ご自

身も脳梗塞を患い支援を受けながらの介護で、介護施設への入所も考えられましたが、やはり家族に支えられ、周りの人に見守られながら生きていく事が一番いいのではないかとこの思いで一生懸命に頑張っておられるとのことでした。

在宅介護の大切さと、地域社会で支えるネットワークづくりの大切さを痛感します。そして高齢者や介護を必要とされる方との関わりをなかで、大事なことは、

★本人を決して病人扱いしないこと。

★人権を尊重し、本人のプライドを傷つけないこと。

だと言われています。

市内にも、この方と同じように頑張っておられる方がたくさんいらっしゃると思いますが、決して一人で悩まずに、市役所の地域包括支援センターや地域の民生委員さん、社会福祉協議会など、福祉に携わっている方に相談をしていただきたいと思います。きっとよりよい方向が見いだせると信じています。

